

# 太陽 ASG

## エグゼクティブ・ニュース

テーマ：英語の効率的な学習法

執筆者：株式会社村上憲郎事務所 代表取締役 村上憲郎氏

要旨（以下の要旨は1分30秒でお読みいただけます。）



今年度（2011年度）から、小学校高学年での英語教育が必修となりました。日本がグローバル化の進展に遅れないようにするために、英会話をも取り入れた英語教育の必要性は、以前から経済界や教育界を中心に強く唱えられてきました。

実際、英語でのコミュニケーションスキルの獲得は我々ビジネスに携わるものにとっては喫緊の課題であり、最近ではどこの書店でも英会話コーナーが設けられているのが普通です。コーナーで展示された書名では「英語が1週間で話せるようになる」のはまだしも、最短だと「30分で英語が話せる」タイトルの本まであります。

ただ、英語は文法構造、母音数、イントネーションが日本語と大きく異なる言語だけに、ビジネスや生活上必要とされる英語の「読む、書く、聴く、話す」能力を習得するには、かなりの日時を要するに思われます。何とかして、効率よくこの能力を身につける方法はないのでしょうか？

今月号では、この問い掛けへの回答として、ベストセラー書「村上式シンプル英語勉強法」（ダイヤモンド社）を上梓されている元・米グーグル副社長兼日本法人社長の村上憲郎氏に解説していただきます。同氏の英語学習法は、同氏が外資系会社に転職後必要に迫られて試行錯誤の末に編み出されたもので、「英語の勉強は自転車に乗る練習と同じ。鍛えるのは、英語を使いこなすための筋力」であり、「日本語しか知らない体に、英語の筋肉を追加していく」のが基本ポリシーです。

本文では、一般に英語習得に当たり疑問となる10数個の質問項目に答える形で英語学習法が述べられています。

その骨子は、自己の関心領域や仕事等に関する本を多読し300万語「読む」、身の上話や自分の会社について似た英語を探しそれを英借文して「書く」、聞き取れない教材を耳の筋トレとして1,000時間「聴く」、話すには聴く訓練が最優先で、その後は典型表現パターンを身につけ英借文した自分ストーリーを暗記して「話す」、です。

このほか、小学校からの英語教育は必須、通じる英語として簡単な1,500語を使うグロービッシュの考えには賛成だが、意思疎通には1万語必要、日本語訛りの英語で十分、TOEICは英語の能力検定に有効でない、などと主張されています。

今月号の内容は大変分りやすく、「以下の本文は5分でお読みいただけます。」ので是非本文にも目をお通しください。

---

「太陽 ASG エグゼクティブ・ニュース」バックナンバーはこちらから <http://www.gtjapan.com/library/newsletter/>  
本ニュースレターに関するご意見・ご要望をお待ちしております。Tel: 03-5770-8916 e-mail: t-asgMC@gtjapan.com  
太陽 ASG グループ マーケティングコミュニケーションズ 担当 藤澤清江

---

## 英語の効率的な学習法

株式会社村上憲郎事務所 代表取締役 村上憲郎

### 1. はじめに

私は、2008年8月に「村上式シンプル英語勉強法」(ダイヤモンド社刊)を上梓させて頂いた。幸いにもそれこそ想定外のご評価を頂き、20万部を超えるベストセラーとなり、現在も好調な売れ行きが持続している。特に、昨年の楽天・ユニクロ等の英語公用化宣言や日本企業の新卒グローバル採用の開始等により、ビジネス活動における英語運用能力の必要性が改めて認識されたこともあり、売れ行きが再加速された。そのような幸運に恵まれたとはいえ、そのような時代の到来を必然と感じたからこそ、私の拙い経験談を書籍の形にしなければと考えたというのも、また、事実であった。なぜ、そのような使命感とも言える想いに駆られたかということ、英語運用能力の習得に挑まれている多くの人達の悩みや苦勞を聞き、相談されるたびに、相も変わらぬ伝統的な学習法に拘泥されている姿に、30数年前の自分の姿が重なったからである。30数年前、英語運用能力のかけらもないまま、無謀にも、外資のコンピュータ企業に転社し、同じ悩みや苦勞を味わった私が、七転八倒のうちから編み出した「私の勉強法」が、まだ有効性があると確信できたからであった。

さて、この度、私の本を読まれた方から、以下の質問集を頂いた。「私の勉強法」そのものは、要約では意を尽くせないことによる誤解を招きかねないという恐れもあるので、是非、「村上式シンプル英語勉強法」(ダイヤモンド社刊)を読んで頂きたい。必ず、お役に立てるヒントの2つ3つは、少なくとも見つけていただける確信がある。ということで、ここでは、本をお読み頂いていることを前提として、質問集に答える形で、本の内容を補足したいと思う。

### 2. 質問と回答

#### 1) 簡単な英単語を使って、通じる英語を目指すグロービッシュの考え方をどう思うか?

結局、片言英語の域を出ず、ビジネスの世界では相手にされないものか?

グロービッシュの思想の根底には、「国際公用語としての英語は、母語者の独占物ではなく、非母語者との共有物である」という考えがあるように思える。これは、極めて重要な考え方であると私も思う。私も勝手に、「ブローケンイングリッシュ同盟」を名乗っているが、我が同盟の主張は、以下の2点である。

母語者は、非母語者が参加している場合は、使用語彙数を1万語以下に抑える努力をせよ。

母語者は、非母語者が参加している場合は、なるべく簡明な構文・文法的に省略の少ない文体で、クッキリとした発音で、不自然になる必要はないがユックリと発語せよ。

グロービッシュと我が同盟の主張で最も異なる点は、語彙数である。グロービッシュは、1,500語を主張している。私は、1,500語では、かえって表現が複雑となり、母語者



も非母語者も困惑すると思う。非母語者も1万語程度の語彙数を身につけるべきだと考える。ちなみに高等教育を受けた人間の母語の語彙数は、7万～10万語である。非母語者といえども1万語近くの語彙の習得に努めることは、国際公用語の効率性といった点から、受け入れるべきだと思う。1,500語では、ビジネスを遂行するには、全く不足していることは明白である。

## 2) ヒアリングを1,000時間続けると、本当に英語は聞き取れるようになるか？

その場合、1日何時間ぐらい続ける必要があるか？

聞き取れるようになる。ただし、不自然にクックリと発語された教材を何千時間聴き続けても聞き取れるようにはならない。自然な速度で発語された教材を、まったく聞き取れなくとも、筋トレと思って、聞き耳を立てて聴かねばならない。筋トレであるから、いつも自分の能力以上の教材でトレーニングしなければ上達しない。つまり、やや上達して、自然な速さの教材が30%位聴けるようになったら、不自然な位早い発語の教材を聞く必要がある。教材を捜すコツは簡単である。聞き取れない教材を探せばいいのだ。大切なポイントだから繰り返すが、筋トレであるから、いつも自分の能力以上の教材でトレーニングしなければ上達しない。

1日1時間、3年間聴き続ける必要がある。365時間 × 3年間 1000時間。2時間なら、1年半、3時間なら、1年間。「私の勉強法」は、既に成人に達した人向け、つまり、なるべく早く実用的な英語運用能力を習得する必要性に迫られた人向けである。「英語を勉強する」のが目的ではなく、「英語で何かをする」のが目的の人向けである。ならば、3年間でぎりぎり許される、その為に費やせる期間ではないのか。だから、最低でも1日1時間。365時間 × 3年間 1000時間。

## 3) 日常生活やビジネスで必要とされる語彙数は1万語とも言われるが、実際はどうか？

また、それだけの単語を、どうすれば習得できるか？

1万語習得すると、英語の雑誌や書籍を読んで、1パラグラフに知らない単語は、多くても2つか3つになる。それが、1つか2つになるには、1万5千語の語彙が要る。ただし、1万語レベルを超える語には、非母語者の通常の読書量では、一生のうち再度出会う可能性は極めて低い。つまり、1万語以上の語彙は、非母語者にとって縁なき語彙である。反対に1万語までの語彙は縁ある語彙である。縁ある語彙をホントに縁あるものにするためには、頻繁に出会うことである。まず顔見知りになることである。顔見知りになれば、その名前(意味)を覚えるのは、あと一歩である。顔見知りになるには、自分の現在の語彙レベルの次の語彙レベルの例えば1千語を毎日眺めることである。意味(名前)を覚えようとせずに、綴り(顔)と意味(名前)を綴り(顔)を中心に眺めていくのである。1時間かけて1千語。毎日、「こんにちは」。「こんばんは」。「よくお会いしますね」。「ところで、お名前は？」

## 4) 日本人の発音を矯正する必要があるか？

今のままの日本人の発音でも、国際会議などで通じるのか？

必要はあるが、通常言われる、bとv、rとl、sとth、といった日本人に不得意な発音だとされるものではなく、発音における唇の力の込め方、息の力強いはき方、腹の

底からの発声といったことの矯正の方が基本的に大切である。風呂の中で、アルファベットを力強く発声し、ヴォイストレーニングをすると良いだろう。しかし、発音に気を取られるあまり、喋れなくなるという日本人特有の症状を呈しないためにも、あまり、発音に拘泥するのは、如何なものかと思う。母語者のような発音を目指すなどということは、愚かなことだ。日本語訛りの英語も立派な国際共通語としての英語である。堂々としゃべろうではないか！

### 5) 30歳を過ぎてからでも、ビジネスで通用する英語を習得することは可能か？

語学も音楽と同じで、小さい頃に慣れないと習得は困難か？

勿論可能である。私が、未だに下手だが、その証拠である。勿論、なるべく幼少時から習得したのに越したことはない。我が同盟は、非母語者の母語者への非母語者故の不利益を解消することを目的に、前述の と の主張を続けているが、受け入れられるかどうかは不確実である。日本を代表する立場の日本人が、非母語者故の不利益を被らない確実な方法は、母語者並みに英語に精通することである。

### 6) 日本の国際化にとって、小学校からの英語学習は必須か？

むしろ正確な日本語習得にとって、マイナスにならないか？



必須であると思う。ただし、国語と同じ時間数を割り当てる必要がある。日本の教育課程の大幅な見直しを必要とする。その場合、日本語の習得にマイナスに成らない配慮が必要である。完全なバイリンガル教育は、可能であるただ、今日のところは言うておこう。

### 7) 日本人にとり苦手とされる長文を読解するのに効果的な方法はないか？

ひたすら、多読することである。300万語読めば、だれでも読めるようになる。ここでいうところの読むとは、英文和訳ではない。「英語を読み日本語に頭の中で訳す」のではなく、「英語を英語のまま、内容を読む」のである。つまり、「英語を読む」のではなく、「英語で読む」のである。もちろん、後戻りしてはならない。内容が取れなくとも前へ前へと読み進むのである。どうしても戻りたければ、パラグラフの先頭まで戻って、もう一度前へ前へと読み進み直すのである。

教材としては、初心者には、米国の子供向けの理科・社会の副読本から始めるといいかもしれない。次に、自分の関心領域や仕事に関するノンフィクションに進むといいだろう。つまり、ここでも、一刻も早く、英語「を」読むから、英語「で」読むに意識を切り替えることが、重要である。

### 8) TOEIC や TOEFL は、ビジネスでも有効な英語能力検定と思われるか？

TOEIC スコアは、何の役にも立たない。TOEFL の最下位得点層を無理やり意味もなく順序付けて、お金を取っているだけだと思われる。英語学習趣味者向けのエンタメだと思う。

### 9) 日本にいまのままでは、英語上達は望めない(ほとんど無理)か？

そんなことは、全くない。その気になって眺めてみると、街には母語者があふれかえり、TV もネットも英語だらけだ。1日3時間(聴く1時間、読む1時間、単語1時間)やれば、日本でも上達出来る。勿論、留学すれば、四六時中そのような環境というか、待ったなしの地獄で鍛えてもらえることは、確かではあるが。

### 10) 「聞けるようになれば、ほぼ自動的に話せる」(野口悠紀雄氏)というが、本当か？

本当である。逆に「聞こえなければ、会話が成立しない」のであるから、訓練は、聴く訓練が最優先である。話すには、本でも述べたが、次の典型表現パターンを身につければ、少なくとも、英語圏で生き残れる。

質問する。

自分がAA したいと言う。

自分が相手にBB して欲しいと言う。

相手がCC したいかと訊く。

相手が自分にDD して欲しいかと訊く。



その次に話さねばならなくなることといえば、自分のことや自分の会社のことである。飲み会や仲間内の会話で、いつも日本語で話しているあなた自身のことだ。自分話、自分の会社話だ。その話を100話、英語で暗記しておこう。どうするか？ 飲み会や仲間内の会話を録音しよう。そこで自分がしゃべっていることを、日本語で書きだそう。それをもっと膨らまして、日本語で書き足そう。十分な量の日本語の自分話や自分の会社話ができたら、それを英語にしよう。その際、英作文は諦めよう。準備した自分話や自分の会社話の一つ一つの日本語の文に近い英語の文を、何処からか探して来よう。その英語の文の固有名詞その他を、自分用に入れ替えて、英語の自分話や自分の会社話に変えよう。これを、私は、「英作文」ならぬ「英借文」と呼んでいる。

こうして「英借文」した、100の自分話や自分の会社話を暗記しておけば、2時間位の母語者とのディナーやパーティの話題には困らない。この100の自分話や自分の会社話は、場数を踏むごとに新しい表現が加えられて洗練され、新しい話も加えられ、ジョークすらも交えた、堂々たる会話にいつの間になっただろう。そうすれば、他人や他社のことも100の自分話や自分の会社話の改訂版として、数百の他人話や他社話として語れるようになっていよう。その頃、貴方は、社内でも一目置かれた英語使いと呼ばれている自分を見つけることだろう。

### 11) 英語で、相手に失礼に聞こえるとして注意するものにどんな表現があるか？

この類の話は、英語産業が、日本人を脅かす手でしかない。一般の非母語者は、失礼なことを言えるほど、英語が上手ではないので、心配しなくてもよろしい。

## 12) 英語は、他の外国語と比べて学びやすい言語か？

そうであろうと、そうでなかろうと、どうだというのか？ 英語は、国際公用語の地位を獲得した唯一の言語である。そのことの当否はさておき、国際公用語たる英語の運用能力無しで、21世紀を生きていこうというのは、ハイリスク過ぎる

## 13) いくら注意しても聞き取れない発音はあるのか？

あるとして、あきらめるしかないか？

もちろんある。母語者といえども100%聞き取れているかどうかは、判らない。我々も、我々の母語たる日本語の音を全て聞き取れているのかどうか怪しいものである。それでも意味が解るのが、母語の母語たる所以である。

以 上

### 執筆者紹介

**村上 憲郎(むらかみ のりお) 1947年 大分県生まれ**  
株式会社 村上憲郎事務所 代表取締役。慶應義塾大学特別招聘教授。会津大学参与。

#### < 学歴・職歴 >

1970年 京都大学工学部卒業  
1970年 日立電子(株)入社  
1978年 日本デジタルエクイップメント(DEC Japan)に転職  
1986年 DEC 米国本社勤務  
1992年 日本 DEC 取締役  
1997年 ノーザンテレコムジャパン(Northern Telecom Japan) 社長兼最高経営責任者  
2001年 ドーセントジャパン(Docent Japan)設立、社長  
2003年 米グーグル(Google)副社長兼日本法人社長  
2009年 グーグル日本法人名誉会長  
2011年 (株)村上憲郎事務所設立、代表取締役

#### < 主要著作 >

知識ベースシステム入門(インフォメーションサイエンス社)、村上式シンプル英語勉強法(ダイヤモンド社)、村上式シンプル仕事術(ダイヤモンド社)、スマート日本宣言 経済復興のためのエネルギー政策(アスキー新書<共著>